

被災したママパパを受け止める傾聴電話事業 実施のご報告

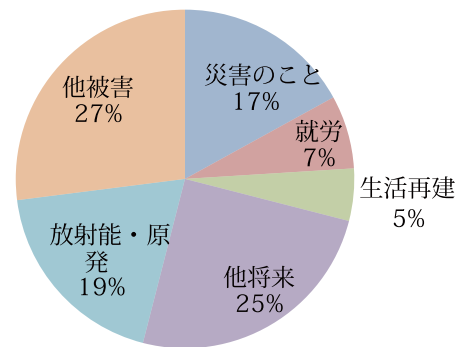


2011年3月11日の東日本大震災と原発事故から2年が経ちました。私たちは、昨年に引き続き、被災した子育て世代への支援として「子育て者のための傾聴電話ママパパライン」を被災地と全国で実施いたしました。宮城県仙台市の常設強化、福島県会津若松市での常設開始、全国の常設団体での電話開催に加え、岩手県盛岡市で2月11日から3月11日の1ヵ月間の特設フリーダイヤルを開設し、1年間に563件のお母さん達の声を受け止めました。子ども達の心の傷、家族の離散、被災者間の格差。長引く避難生活に疲れ、家族や夫婦がぶつかり、心の病に悩んでいる。被災した方も直接被災してはいない方も、仕事や暮らしが変化し、とまどいながら生活し子育てしている、その切実な声が届きました。2年経ってやっと話せたつらい記憶や、地元では誰にも言えない本音、先の見えない不安などを悲しみや怒りとともに話す声に、訓練を受けた電話の受け手が精いっぱい寄り添い、耳を傾けました。話して受け止められていくうちに、泣き声が小さくなり、ラクになりましたと言う方も多く、気持ちに寄り添う傾聴の電話が、厳しい現実立ち向かう力を取り戻す効果も改めて強く実感できました。

広報にご協力いただいた東北3県の担当者の皆さま、仙台市、会津若松市、盛岡市で実施を支えてくださった協力者の皆さま、助成団体の皆さまに多大な感謝を申し上げますとともに、今後も引き続きこのニーズに応えて行くためのご支援をお願いいたします。

■災害に関すること

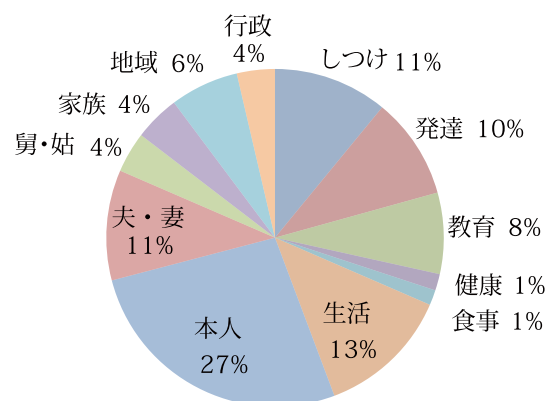
放射能・原発のこと、将来の不安、生活や心身への様々な被害など幅広い内容でした。放射能が心配だが移住できない、避難先で親子とも孤立し帰りたいけど帰れないなど、災害が生活や子育てに今なお深く影を落としている現状が伝わってきました。



■災害に直接関係しないこと

子どもの発達や学校生活の悩み、夫婦や家族、地域の人間関係の問題など、ママパパラインに常に寄せられる悩みは被災地でも多く届きました。

学校が親の気持ちを理解しない、イライラして子どもについ当たってしまうなど、避難生活のストレスが子どもや学校に向かってしまう、憂慮すべき状況も垣間見えました。



電話の実施

仙台・福島・岩手を全国のネットワークでバックアップ

◆ママパパラインいわて（岩手県盛岡市）0120-147-445

2013年2月11日（月）～3月11日（月）10～14時

◆ママパパライン仙台（宮城県仙台市）022-773-9140

毎週金曜日 10～16時

◆ママパパライン会津（福島県会津若松市）0242-85-7878

毎月第1・3木曜日 10～16時（平成24年7月より開設）

◆全国6箇所のママパパライン

2013年1月28日〔月〕～2月2日〔土〕のキャンペーンと2012年4月～2013年3月の各開設日

ママパパラインほっかいどう（北海道石狩市）080-6062-4735 毎週月曜日13時～16時

ママパパラインちば（千葉県千葉市）043-204-9390 毎週金曜日10～16時

ママパパライン東京川の手（東京都江東区）03-3633-0415 毎月第3金曜日13～16時

ママパパラインあいち（愛知県名古屋）052-203-8655 毎月第1・3水曜日10～16時

ママパパラインわかやま（和歌山県和歌山市）073-432-3690 毎週火曜日13～16時

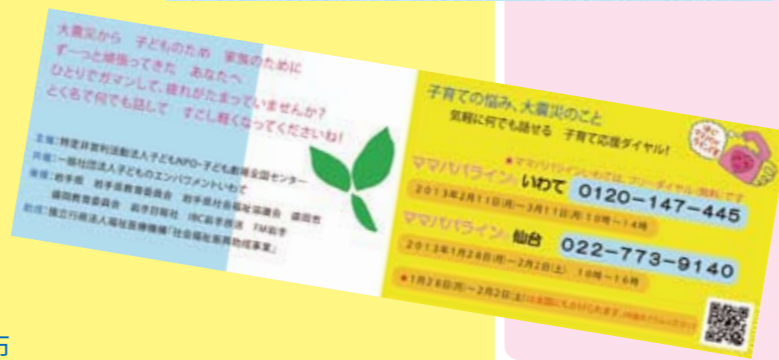
ママパパラインひょうご（兵庫県神戸市）078-945-8333 毎月第1水曜日10～16時



広報活動 / 東北6県広域への広報・周知を実施

◆メディアへの掲載

NHK福島放送局、朝日新聞・毎日新聞・読売新聞（各地域版）、河北新報、FM仙台、MIXI福島民友新聞、千葉日報、地域ミニコミ誌、生協広報紙、江東区報他



◆東北6県へのカード・ポスターの配布

各市町村の子育て支援担当者を通じて、支援センター、保育園・児童館など子ども施設、学校、避難所、児童相談所、福祉事務所、保健センター、社会福祉協議会などに配布、設置。協力者による直接配布も実施。

●広報周知 宮城県

仙台市 白石市 角田市 石巻市 名取市 多賀城市 岩沼市 登米市 東松島市 気仙沼市 大崎市 塩竈市 栗原市 亶理郡亶理町 亶理郡山元町 宮城郡松島町 宮城郡七ヶ浜町 宮城郡利府町 黒川郡大和町 黒川郡大郷町 黒川郡富谷町 刈田郡蔵王町 刈田郡 柴田郡大河原町 柴田郡村田町 柴田郡柴田町 柴田郡川崎町 伊具郡丸森町 黒川郡富谷町 黒川郡大衡村 加美郡色麻町 加美郡加美町 遠田郡涌谷町 遠田郡美里町 栗原市 牡鹿郡 女川町 本吉郡本吉町 本吉郡南三陸町

●広報周知 福島県

福島市 郡山市 いわき市 須賀川市 白河市 二本松市 本宮市 三春町 伊達市 相馬市 南相馬市 会津若松市 喜多方市 南会津町 会津美里町 会津版下町 磐梯町 猪苗代湖町

●広報周知 岩手県

盛岡市 宮古市 大船渡市 花巻市 北上市 久慈市 遠野市 一関市 陸前高田市 釜石市 二戸市 八幡平市 奥州市 雫石町 葛巻町 岩手町 滝沢村 紫波町 矢巾町 西和賀町 金ヶ崎町 平泉町 住田町 大槌町 山田町 岩泉町 田野畑村 普代村 軽米町 野田村 九戸村 洋野町 一戸町

●広報周知 秋田県 山形県 青森県の一部



いろいろ話せて、
気持ちが軽くなりました。
また頑張ってみます。

◆放射能、原発、被災に関する子どものこと

●ひとりでトイレに行けなくなった／地震を感じると「また津波来る？」と不安がる／子どものPTSDで通院、自分もイッパイ／暗い所やお風呂で甘えるようになり負担／寝ている間もTVをつけっぱなしだと不安がる／震災以来鼻血が出る、放射能の影響が心配／放射能が心配で移住したいが夫に分かってもらえない／福島から自主避難し夫は単身赴任。子どもが学校に行きしぶる。福島に帰りたくても帰れない／子どもが今の所になじまず福島に戻りたがって泣く／子どもが結婚するとき「福島で生まれ」の差別が心配／福島の夫の実家に放射能が心配で遊びに行けない／本当はおおらかに育てたいのに、震災後神経質になってしまってダメダメばかり言うてしまう

◆生活、家族や夫、被災に関する親自身のこと

●職場環境や人間関係が変わりづらい／ガレキを見ると具合が悪くなる／馴染めない土地での不安／夫が単身赴任で子どもと2人がづらい／仙台の復興を見ると福島が置きざりにされている気持ちになる／水も土も虫も着るものも全て心配／震災後うつ病が悪化／地震が起きるたびに怖い、子どものためこらえている／震災後夫の転職と帰郷がうまくいかず離婚／時間はもどらないがくやしくてしかたがない／子どもを迎えに行っている間に津波で親を亡くした／被災地から転勤したが周りから孤立／仮設の両親同居や仕事のストレスで親子ゲンカが絶えない／実家は仮設生活で助けてもらえない

◆子育ての悩みや不安

●上の子ばかり叱ってしまう／反抗期で悩む／卒乳／赤ちゃん返り／いじめに悩む／不登校／特別支援学級に行かせたくない／言葉が遅い・発達が心配／他の子と比べてイライラ／子どもがかわいく思えない／離乳食を食べない／夜泣きがひどい／感情的に怒ってしまい自己嫌悪／夫の暴力・離婚／夫が子育てに無関心／自分の時間がない／子育てに自信がない／他のママのようにうまく子育てできない／いつか叩いてしまいそう／ママ友やPTAの人間関係に悩む／親の介護と育児に疲れ果てている／児童館や広場で孤立／虐待の記憶に苦しむ

◆かけ終わってのママの一言

●話しを聞いてもらって落ち着きました／今まで誰にも言えなかった／自分で整理がついてきました／こういう所しか言える場所がない／なんだかラクになりました／専門機関に相談する前に、誰かに相談したかった／グチをきいてもらってすっきりしました／焦らないようにやってみます／自分も休めるよう工夫してみます／こんど夫にそう話してみます／気付けばできるんですね、話せて良かったです／どうすれば良いのかわからないけどきてくれてありがとう

◆ママパパラインとは

子育ての悩みや不安に耳を傾け、共感的に聴く専用電話です。孤立して子育てしていたり、周囲には言えない悩みがある方が、じっくり話を聞いてもらい、行き場の無い気持ち受け止めてもらうことで、気持ちが軽くなり元気が出て、前向きな気持ちになれることが多い。傾聴によるエンパワメントの電話なのです。子育て中の方の気持ちを支援することで、過剰なストレスが子どもに向かう虐待や育児放棄を防止する効果があります。

◆あゆみ

2002年に東京で初めて開設され、以降、全国で常設化が進んでいます。賛同団体の全国キャンペーンも毎年開催されています。

2002年2月 東京都内で初めての開催

2003年10月 全国8箇所で開催

2005年3月 千葉市で常設開始

2007年3月 仙台市で常設開始

2008年3月 「ママパパライン」の商標取得

2008年4月 東京都で常設開始

2008年10月 和歌山市で常設開始

2009年4月 名古屋市で常設開始

2009年9月 石狩市で常設開始

2012年2月 神戸市で常設開始

2012年7月 会津若松市で常設開始

2013年2~3月 盛岡市で特別開設

◆研修

- 被災した子どもや家族の心に寄り添って／芳賀沼香澄さん（スクールソーシャルワーカー）
- ママパパラインの傾聴とは／西田葉子さん（カウンセラー）
- 聴くことロールプレイ／石井布紀子さん（子どものエンパワメントいわて理事）

電話の件数 563件

284時間 平均30.9分

うち東北3県 217件

他6県 346件

災害関連 59件

●掛けてきた人

ママ 86%

パパ 3%

祖母 4%

祖父 0%

不明他 7%

合計 100%

●子どもの年齢

0歳 9%

1歳 10%

2歳 11%

～未就学 23%

小学生 27%

中学生 11%

高卒以上 3%

不明 6%

合計 100%

「ママパライン会津、開設への思い」【抜粋】

会津子ども劇場 野口文子

福島県で子育て中の親たちは、日頃の子育てでさえ不安なのに、さらに震災での悩みや不安も加わり未だに混沌としています。忘れられないあの日から2年が経ちますが、様々な不安な思いや悩みは解消されるどころか、時間の経過と共に多種多様で、深刻な状況になってきています。

2年前、不安に押し潰されそうな私たちに必要な事は、溢れる不安な思いを声に出し、思い切り話せる場所でした。様々な価値観の中で、素直に思いを発する場所が無く、思い悩んで追い詰められる親たちは少なくありませんでした。そんな時、私たち会津子ども劇場がママパラインを開設できた事は運命としか言いようがありません。子ども劇場全国センターと全国の方々の応援で7月に開設し、受け手養成講座を開催し、1月には私たちだけで実施できました。経験の浅い私たちですが、少しでもママ達の力になればと誠意を込めて傾聴しており、会場は優しい空気に溢れています。

今後、福島で生き、子育てをする覚悟と共に、1人でも多くの方々にママパラインを知って頂き、電話をかけて下さった方々の気持ちを少しでも軽くする事が出来ればと思っています。

「ママパラインいわて事業報告」【抜粋】

子どものエンパワメントいわて 打田内裕子

「子どもとの信頼関係を作り直すのは、私なんですよね」29日間連続電話事業の最後の電話は、相談者のこの言葉で終わりました。困難な状況の中で視野が狭くなりがちだった母親の気持ちに受け手は寄り添い、しかし粘り強く言葉をかけました。今はまだつぶやくような言葉だけれど、彼女の心の変化を受け手支え手で嬉しく感じ取り、2月11日から3月11日まで29日間の一期一会に改めて想いを馳せました。

ボランティア養成講座を修了した15人の受け手支え手で、岩手のママパライン事業はスタートしました。29日間の件数は54件。後半に向かうに従い、60分を超す電話も増えてきました。震災後の、直近の生活課題や深刻な暴力などの相談段階を経て、発災からこれまでを寡黙に耐えてきたひとたちの心のケア段階に来ている。時の経過と共に「話したい」と思うひとたちが増えてきているのかもしれないと、漠とした印象ながら感じるところです。当法人が目指すエンパワメントアプローチとして今後何が出来るのかを考えていきたいと思っています。

■実施団体

ママパラインいわて 一般社団法人子どものエンパワメントいわて（連絡先：019-681-6300）

<http://www.epatch.jp/>

ママパライン仙台（特）せんだい杜の子ども劇場（連絡先：022-375-3548）

<http://www.ab.auone-net.jp/~senmori8/>

ママパライン会津 会津子ども劇場（連絡先：0242-27-0588）

<http://1st.geocities.jp/aidukodomogeekijyou/>

ママパラインほっかいどう（特）こども・コムステーション・いしかり（連絡先：0133-64-5640）

<http://comstation.sakura.ne.jp/>

ママパラインちば 子ども劇場千葉県センター（連絡先：043-301-7262）

<http://chiba.gekijou.org/>

ママパライン東京川の手 こうとう親子センター（連絡先 FAX：03-3634-4085）

<http://www.kotooyako.com/>

ママパラインあいち（特）名古屋おやこセンター（連絡先：052-205-8881）

<http://www4.ocn.ne.jp/~nagoyact/>

ママパラインわかやま（特）子どもNPO 和歌山県センター（連絡先：073-432-3664）

<http://kodomo-waka.org/>

ママパラインひょうご（特）兵庫県子ども文化振興協会（連絡先：078-361-1152）

<http://www13.ocn.ne.jp/~npooyako/>

特定非営利活動法人子どもNPO・子ども劇場全国センター

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-29-5 グランドメゾン新宿東902

電話 03-5369-2811 FAX 03-5369-2812 Eメール minfo@mamapapa-line.net

ホームページ <http://www.mamapapa-line.net> <http://www.kodomo-npo.org/>

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 2013年3月発行
このリーフレット内容を無断で引用・転載することは固くお断りいたします

